

15 世界海上保安機関長官級会合を開催

近年、気候変動による自然災害の大規模化など自然環境は大きく変わり、テロや過激主義がグローバルな脅威になるなど、国際情勢も激変しています。それら地球規模の変化により、世界の至る所で脅威や危険が増加しており、それは我々のかけがえのない海についても例外ではありません。このような状況に最前線で対応する海上保安機関の連携の重要性は一層高まっています。

このため、地球規模の環境変化とそれに起因する課題に対し、地域の枠組みを越え世界の海上保安機関等が協力・連携していくための方策を議論・発信する「新たな対話と協力の場」として、平成29年9月、海上保安庁と日本財団は共同で、世界で初となる「世界海上保安機関長官級会合」を東京において開催しました。

会合には、アジア、欧州、米国、アフリカ、オセアニアなど34か国1地域の海上保安機関等の長官級、3国際機関の事務局長等を含む海外からの参加者約160名が参加したほか、国内の関係省庁や在京の大使館等からのオブザーバー参加を含め、総勢250名超が参加しました。

会合では、「海上の安全及び環境保護」、「海上のセキュリティ」及び「人材育成」の3つのテーマに分けて先駆的な取組の発表や、国際協力に関する議論が行われ、各国の参加者からも、課題に対処するためには、本会合の機会を通じたパートナーシップの強化が必要である旨の発言がありました。

会合の成果物として、世界が直面している課題を克服するため、世界中の知恵及び技術を結集すること、連携の強化及び対話の拡大を図ることの重要性等を確認する「議長総括」が取りまとめられ、様々な分野での事例・経験の共有、共通の行動理念の理解を深めつつ、人材育成のあり方を検討していくことが奨励されました。



各国海上保安機関長官等との写真撮影

また、会合に先立ち迎賓館赤坂離宮において開催されたウェルカムレセプションでは、安倍内閣総理大臣から、「平和で安定した海」の実現のため、海上保安機関の役割が重要であり、世界中の海上保安機関が海を通じて繋がりが合い、交流を深化させ、難題解決のための力を結集することが極めて大切である旨のスピーチがありました。

今後、海上保安機関の役割が世界的に高まっていることを自覚し、会合で奨励された考え方を海上保安機関から世界に発信し、行動に移していくことで、海とともに発展する世界の人々の安心と安全に貢献してまいります。

16 「海の日」行事（海洋基本法施行10周年記念シンポジウム、海の船一斉公開等）

平成29年7月17日の海の日、晴海客船ターミナルおよびその周辺において、「海と日本プロジェクト in 晴海」を開催しました。

開催に先立って総合開会式を行い、松本純海洋政策担当大臣、石井啓一国土交通大臣、笹川陽平日本財団会長にご挨拶いただくとともに、「海の日」を迎えるに当たっての内閣総理大臣メッセージが読み上げられました。

総合開会式に引き続いて、「海洋基本法施行10周年記念シンポジウム」を開催しました。「海洋基本法10年を振り返る～歴史的意味と課題～」と題して武見敬三参議院議員に基調講演をいただいた後、「海洋の安全保障」「海洋人材の育成」をテーマに、各分野の専門家にご登壇いただき、活発な議論が行われました。



総合開会式



シンポジウム(基調講演)



シンポジウムの様子(左:海洋の安全保障、右:海洋人材の育成)



また、東京港晴海埠頭において、巡視船や自動車専用船、有人潜水調査船など 6 種類 7 隻の大型船を集めた『海の船一斉公開』、晴海客船ターミナルにおいて、操船シミュレータ体験やロープワーク体験などの『ワークショップ・各種展示会』の他、『海洋セミナー』として、ミス日本「海の日」の三上優さんが司会を務めた女性船員による船と船の仕事に関する講演会や、有人潜水調査船「しんかい6500」の現役パイロットによる深海についての講演会、ヨットレーサーとして数々のレースで活躍している海洋冒険家白石康次郎氏による「七つの海を越えて」と題する講演会を開催し、小中高校生の親子を含む約 1 万人を超える来場者がありました。



巡視船「ぶこう」



有人潜水調査船「しんかい 6500」



女性船員による船と船の仕事に関する講演会

参考

2017 年「海の日」を迎えるに当たっての内閣総理大臣メッセージ

http://www.kantei.go.jp/jp/97_abe/discourse/20170717uminohi.html